

## 令和6年度 中学生の「税についての作文」受賞作品 <静岡地区>

賞	学校名	学年	氏名	題名	頁
全国納税貯蓄組合連合会 会長賞	静岡大学教育学部附属 静岡中学校	3	齋藤 一翔	税からうまれる笑顔	2
静岡税務署長賞	静岡市立東豊田中学校	2	川崎 ひかり	私の楽しみも 税金で支えられている	3
静岡税務署長賞	静岡市立安倍川中学校	2	齋藤 夏摘	未来を繋ぐ税金	4
静岡県静岡財務事務所長賞	静岡市立城山中学校	1	根本 壮太	税へのイメージ	5
静岡市長賞	静岡市立安倍川中学校	1	大橋 美月	震災と税金	6
静岡税務連絡協議会会長賞	静岡市立東豊田中学校	3	寺坂 絆	税金ではじまる支え合い	7
静岡納税貯蓄組合連合会 会長賞	静岡市立長田南中学校	3	稲葉 琴音	税の役割	8
一般社団法人静岡法人会 会長賞	静岡市立東豊田中学校	3	杉山 哲平	税とは何か知る	9
一般社団法人静岡青色申告会 会長賞	静岡市立安倍川中学校	1	倉持 涼太	税制と未来への提言	10
静岡間税会会長賞	静岡市立安倍川中学校	2	良知 虎路	税金の役割と私たちの未来	11
東海税理士会静岡支部長賞	静岡市立城山中学校	2	松山 瑞希	税について考えたこと	12
静岡酒類行政連絡協議会 会長賞	静岡市立城山中学校	3	山田 悠斗	税金の使われ方	13

※掲載にあたり、一部の誤字等を修正しています。

## 「税からうまれる笑顔」

静岡大学教育学部附属静岡中学校3年 齋藤 一翔

僕が「税」という言葉を聞いた時、身近なようで深く考えてこなかったものだと思った。増税、関税、国税、確かによく聞く言葉だらけだが、聞くだけでどのようなものなのかを考えたこともなかった。

そこで、自分の身近な税を探してみた。最初に思いついたのは、学校の教科書だった。始業式や入学式でもらう教科書。すべて税金で賄われている。他にも、僕はよく塾に行く前にコンビニを利用する。ゴミやおにぎりやお茶などを買うときに、毎回支払っている消費税が一番身近なのかもしれない。母と話をした時に、毎月の給料の中から住民税や所得税を納めているけれど、買い物一回ごとの消費税は少なくとも、一生で考えると一番多く払うことになるのが消費税だと教えてもらった。僕は税金を納めていないものだと思っていたが、毎日のように納めていたことがわかった。

ところで、そんな毎日納めている税金は何に使われていて、誰のためになっているのだろうか。

ある日、僕と母で近所のこども食堂へ行った。そこは以前、英語を教わっていた先生が営む子ども食堂だった。中に入るとたくさんの方が利用していた。お父さんが三人の子どもを連れてきていたり、子どもたちだけできていたり、奥の方ではみんなのために汗をかきながら料理を作っている人が何人もいた。利用している人は、ひとり親の子たち、共働きで昼だけを食べにくる子もいる。

また、母からは貧困を支えていたり、子供たちの心の居場所としての役割をしたりしていると聞いた。初めて利用したが、確かに地元の人たちの居場所であり、次から次へとたくさんの方が利用していて驚いた。

調べてみると、こども食堂を運営するときに助成金という補助をしてくれるお金とボランティア、フードバンク、直接の食べ物の寄付から成り立っているとわかった。この補助されるお金が税金なのだ。

このように、自分たちが払っていた消費税というのは、知らないところでとても大切なことに使われていることがわかった。

そして、自分たちが食べている食べ物や教科書など身近にあるものは、当たり前ではなく、家に帰れば当たり前のようにある環境も当たり前ではないのだと感じた。

これからは買い物をする時、心のどこかで誰かの役にたっているかもしれないと思う。日常を過ごす中で、日々感謝しながら生活をしていきたいと思った。みんなが少しでも平等に温かいご飯が食べられるようになり、居場所が増えることを僕は願う。

一回に納めるものはわずかでも、積み重なれば、誰かを笑顔にできるかもしれない。

## 「私の楽しみも税金で支えられている」

静岡市立東豊田中学校2年 川崎 ひかり

私は幼い頃からずっと図書館に通っています。本屋で本を買わなくても、手軽にたくさん本を好きなだけ読める図書館は私の大好きな場所です。無料で本を借りられる図書館の運営に税金が使われていることは知っていました。しかし、具体的にはどのような種類の税金が使われているのか疑問に思い、調べてみたいと考えました。

総務省のサイト内の固定資産税についての説明を見ると、「固定資産税は普通税（税収の用途が定められていない税）であり、徴収した市町村により、例えば皆さんが毎日使う道路や学校、友達と遊ぶ公園など、日々の生活で利用する公共施設の整備のほか、介護・福祉などの行政サービスにも使われています。」とあり、図書館などの公共施設は主に固定資産税などの市町村税によって運営されていることが分かります。その他にも、住民税や消費税なども公共施設の運営に使われているそうです。

また、日本図書館協会の見解・意見・要望によると、公立図書館の図書資料等購入費は令和三年度には八百二十三万円ほどだったと書かれています。このうちの何割かも税金によって賄われているそうです。

このように、図書館などの公共施設は納められた税金によって運営されているため、無料、あるいは安価で利用できるのだと分かりました。また、図書館の本を無料でたくさん読むことができるのも税金の恩恵を受けているからだと分かりました。そのため、税金で購入された本をこれからも大切に扱おうと思いました。

私は、税金が私たちが生活するうえで大切なものだとして知ってはいました。しかし、「税金」というとやはりマイナスなイメージを抱くことが多く、消費税を払うときに余計に代金を払うのが嫌だと感じたことがあります。しかし、色々なことを調べてみて、図書館の運営や図書の購入などにも税金が使われていると知りました。そして、私の読書をする楽しみも誰かが納めた税金で支えられていたのだと改めて認識することができました。

今はまだ馴染みのない税金もあるけれど、これから先色々な税金を納めることになると思います。そのときには今の自分の生活や楽しみもさまざまな人が納めた税金によって成り立っていたことを思い出し、自分も他の誰かのことを支える気持ちで納税をしたいと思います。

## 「未来を繋ぐ税金」

静岡市立安倍川中学校2年 齋藤 夏摘

「税金」私はこの作文を書こうと決める前は税金という言葉に興味を持たなかった。

私の学校には二年ほど前にエアコンがついた。最近暑い日が続いている一方、私たちはエアコンの効いた部屋で快適に学習することが出来ている。そんなエアコンが市の税金から出ていることは薄々知っていた。しかしその税金はどこからきて、費用がどの位かかるのか疑問に思ったため、今回はそのことについて考えていくことにする。

まず私は市立図書館にて調べることにした。暑い中図書館に行くと、冷房が効いていてとても涼しかった。私はふと考え、顔見知りの司書さんに「図書館も税金で成り立っているのですか？」と質問をした。するとその司書さんは、調べる本と一緒に選んでくれた。

市立図書館で無料で借りることができる本や机、イスなどの設備、働く人のお給料などが税金でまかなわれている事が分かった。

そこで、税金の歳入について詳しく調べてみると、会社にかかる法人税、また私たちがお店などで払った消費税などにより成り立っていることが分かった。それらが税務署に納められ、国の税金となる国税となり、その一部が市などに配られ、地方税として交付され、公共施設などに使われていることが分かった。

私たちの一番身近で税金で成り立っているものは学校だ。校舎をはじめ、黒板、教科書、理科の実験用具や体育の跳び箱などに税金が使われている。

小学生一人あたり一年間にかかる税金はおよそ八十八万円、中学生ではおよそ百五万円で、義務教育である九年間にかかる税金は一人あたり八百四十五万円と知り、私はとても驚いた。普段私たちが当たり前のように使っていた学校の物はこんなにたくさんの税金により成り立っていたのだ。

そのような税金は、学校以外にも救急車や消防、道路や橋の整備など様々なことに使われ、私たちの生活をより豊かにしてくれる。

この作文を通して伝えたいことは、税金の大切さと、税金への感謝だ。あなたが普段納めている税金で、今後の日本がさらに明るくなり誰かの命を助けることも出来るかもしれない。人と人が支え合っていくこの社会に必要な不可欠なのは税金だ。

税金は誰もが知っているものだと思うが、納めた税金がどこでどのくらい使われているのか、知らない人のほうが多いと思う。この作文を読んだあなたから税金について興味を持ち、日本の明日を作ってほしい。

私も、これから自分のやりたい仕事に就き、税金を納め、日本を支える一員となれるように努力していきたいと思う。

## 「税へのイメージ」

静岡市立城山中学校 1年 根本 壮太

日本には、住民税、取得税など色々ある。調べてみたら約五十種類ありました。この中でぼくがよくきくのは消費税です。よく税ぬきのかかくを見て「これを買おう！」と思っても税こみのかかくをみると「え、ちょっと高い！」と思うときがたまにあります。税金は国のためだしはらわないといけないのです。でもニュースで税金のつかいすぎなどをみると、ちょっと税金に悪いイメージがわいてしまいます。

この前、You tubeのショート動画で消費税が高いと国民の幸福度が高いという動画を見ました。それが気になってネットで調べてみました。

まず税金の一番高い所、低い所、日本の順位を調べました。一番高い所はハンガリー二十七パーセント、一番低い所は台湾、カナダ五パーセント、日本は酒、外食を除く飲食八パーセント、標準税率は十パーセントでした。

次にその国の幸福度をしらべました。ハンガリー五十三位、台湾二十五位、カナダ十一位でした。これをみるとハンガリーがとてひくく台湾とカナダが高いのがわかります。

それから、情報がうそか調べました。幸福度が一位は、フィンランドです。理由はいろいろあります。でも税金が高い分社会保障せいでがじゅうじつし目に見る形で税金が作られているので税金に悪いイメージをもたないということです。2位のデンマークもそのような理由です。3位のスイスは国民主権をとてそんなちようしているという理由です。4位はアイスランドこれも社会保障が充じつしているからです。ハンガリーは社会保障はじゅうじつしていますが汚職のまんえんがげんいんでした。台湾が高い理由は、経済成長によって生活水準がこう上したからです。もう一つは国民の可処分所得も高く、生活に余ゆうがある人がふえているからです。カナダが高い理由は財政が安定しているから税金が安くて社会保障が充じつしているからです。日本がひくい理由は、世帯年収が低く円安、ドル高の中消費税が低いのもあるけれど、社会保障が充じつしているとはいえないという理由です。

ぼくはこれらの事を調べてみて、消費税、税金、増税のイメージが大きく変わりました。You Tubeのショート動画が全て正しくはありませんでした。だけど消費税などの税金が高いと社会保障が充実している所が多いということでした。今まで消費税や増税にマイナスなイメージをもっていました。だけど税金が国民の生活などのためなどにだれでも実感がわくようなことにつかってほしいです。そして幸福どが上がってほしいです。今の少子化などをたいさくして未来に向きあうのが大事だと思います。そして税を払ってもらうのではなく、ぼくが税金をはらって国のために少しでも活やくしたいです。

## 「震災と税金」

静岡市立安倍川中学校 1年 大橋 美月

私たちの住んでいる国は世界の中でも地震が多いといわれています。そこで、国はどのようにして国民の安全を守っているか不思議に思い、税金も含めて調べてみようと思いました。

まず、税金について調べました。税は消費税や所得税の他に法人税や酒税など全四十六種類もあることを知りました。税の使い道については、「公教育の教科書などの提供」「将来に役立つような新しい研究や開発」「公共施設の建設」「ゴミの処理」「警察・消防・救急の運営」「道路・橋・公園などの建設」「災害復興の費用」「年金などの社会保障」「医りょう費」「文化を振興すること」「国会や地方議会の運営」などと、国民が快適に生活を送ることができるように税金が使われていることが分かりました。

次に、過去にあった地震について調べました。住宅、住宅以外の建築物、道路、港湾など、電気・ガス・上下水道などを合わせた被害では、一九二三年の関東大震災で約四十六億円。一九九五年の阪神・淡路大震災で約十億円。二〇一一年の東日本大震災で約十七兆円。今年の一月一日の能登半島地震で約二百四十二億円も被害が出ていて、たった一回の震災でも被害額が億単位いくことが分かりました。その被害は被災地で補えるわけがなく、日本全体で補わなければいけません。そこで助けになるものが「税金」です。主に「災害時の緊急情報」「町の防災無線」「警察・消防・自衛隊の活動」この全てに税金が使われており、災害から身を守ったり・被害を食い止めたり・復興作業のために使われていることを知りました。特に「警察・消防・自衛隊の活動」では多くの人の命が救われました。

次に、もし日本に税金がなかったらどうなるかを調べた内容から考えてみました。普段の生活では、警察・病院・学校・消防署を出動させることには自分で全額払わなければいけなくなり、新しい道路や信号もつくれなくなり、犯罪や事故が増え、病院で治りょうをうけられない人も増え、少子高齢化が進み、日本は「不景気」になってしまうことが考えられました。

これらのことから、税金は日常生活をする上で快適に過ごすために必要なものだと分かりました。まだ消費税ぐらいしか納められませんが、大人になってから国民の義務をしっかりと果たせるようにしていきたいです。

## 「税金ではじまる支え合い」

静岡市立東豊田中学校3年 寺坂 絆

みなさんは、「税金」と聞くとどのようなイメージを持つでしょうか。できるならなくしてほしい、払いたくない、と思う人もいることでしょう。特に最近は増税が多く行われているため、不満に思うこともあると思います。

なぜそう思うのでしょうか。私は税金を払っている額にだけ注目して、税金がどのように活用され、自分たちにどれだけ還元されているのかをよく知らない人が多いからだと考えました。国や地方の役所は不必要に税金を集めてはいません。どうしても必要になったから増税をしているのです。

では、税金は何に使われているのでしょうか。税金の使われ方のうちの三つを紹介します。

一つ目は公共サービスの整備、提供です。例えば、私たちが普段歩いている道路の整備には、税金が使われています。もしも税金が無かったり不十分だったりしたら、道路に穴が空いているといった、日常生活に支障がでてしまうことにも対応できなくなってしまうかもしれません。

二つ目は教育です。公立の小中学校は税金によって運営されています。校舎の補修、エアコン、電灯にかかる電気代、そして個人に配られる教科書の費用までもが税金によって賄われています。私たちが義務教育を受けられるのは、税金のおかげと言ってもいいでしょう。

三つ目は緊急時の支援です。二〇二四年一月一日に起きた能登半島地震の対応、支援にも税金が使われています。例として地震によって止まってしまった水道、崩れてしまった道路の早急な復旧、救助のための自衛隊の派遣などが挙げられます。私が住んでいる静岡県では、南海トラフ巨大地震が今後三十年以内に起こる確率が七〇%から八〇%と言われているなど、日本はいつ大きな災害が起こってもおかしくありません。自分が住んでいない地域で災害が起こってしまったら、税金という形で支援し、もし自分が災害の被害にあってしまったら今度は他の人に助けてもらう。そういった考え方が今の社会を支えているのではないのでしょうか。

このように、私たちが快適に生活するにあたって、なくてはならないものは税金によって賄われています。税金はみんなの支え合いのシステムを構築し、未来につなげていくためのとても大切なものなのです。

## 「税の役割」

静岡市立長田南中学校3年 稲葉 琴音

私は今まで、税について深く興味を持ったり、深く考えたりすることはありませんでした。税金と聞いて思い浮かぶのは消費税くらいで、買い物をしたときに、一緒に消費税を払っているのは理解していましたが、調べていくと「税」には国税（国が主体）と地方税（都道府県や市町村といった自治体が主体）を合わせて40種類以上あり、国民全員が納めている税金は、社会保障・福祉、水道、道路の整備、教育や警察、消防、防衛などの公的サービスに使われています。私は税金の役割について考えました。その1つの答えは、私達の暮らしの安全や平和のためだと思いました。平和とは安心・安全に1日1日を過ごせることではないのかと私は考えました。平和に暮らすためには、できる限り危険や心配事はない方がいいと誰もが思うはずです。そして日々を過ごすために、戦争というものはよいものではないと思います。戦争は明日が保障されていないし、戦争によって恐怖を味わう人々がいたり、子供達は学校へ行けず、毎日恐怖におびえています。

私は今の日本があるのは当たり前ではないと気づかされました。私達は毎日学校へ行って、当たり前のように教科書やノートを開き、勉強しています。でも教科書やノートは税金によって配られている物もあります。他にも、毎日の学校の登下校の際に、道路の工事をしていたり、公園の草を刈っていたりと、私達が何気なく通っている道や小学校のころ毎日遊んでいた公園は、私達の知らないところで、工事をしていたり、整備がなされていたからなんだと税に感謝しました。安全に安心して毎日を送れているのは、当たり前ではないのだと思います。私たちには、見えない・気づかないところでも国民のために税金が使われていることを理解しました。国民全員が納税しているから、安全で平和に暮らせる日本があるのだと思います。

二〇一九年十月に消費税が8%から10%に上げられました。今は何を買うにも高いので、少ないお小遣いでやりくりする私たちにとっては今後も消費税の上げが行われると困ってしまいます。ですが、今回税について調べて、消費税の上げでも社会保障のための上げだったので、使い道や理由がはっきりしていると、納税者の私たちは安心します。そして、税金の役割について疑問に思った人にとって、私の作文が税と平和についての理解のきっかけになれるとうれしいです。



## 「税とは何か知る」

静岡市立東豊田中学校3年 杉山 哲平

税と言われたら何を思い浮かべるだろう。増税、減税、消費税、所得税など様々な税がある。私達はそのような制度がある中で暮らしているが、私は税金が何のためにあるのかよくわからない。だから税金は何のためにあるのか、詳しく調べてみることにした。

まず税金とは、医療などの社会保障、水道や道路などの社会資本整備、教育などといった公的サービスを運営するための費用を賄うものである。これだけでは難しいので、一つ例をあげてみよう。皮膚科に通院している場合、十八歳未満の児童のかかるお金は、最高五百円。しかし病院では、多くの種類の薬をもらうため、普通では五百円以上はかかるだろう。この足りない分のお金を税金で補っているのだ。このように日々の生活をより良くするために税は使われていたのだ。

では、もしもこの日本から税という制度がなくなったらどうなるのだろうか。税がなくなる、つまり社会保障、社会資本整備、公的サービスが受けられなくなるということだ。社会保障が受けられなくなったら、一回の通院だけで今の二倍以上の値段がかかってしまう。また社会資本整備がなくなると、壊れた道路や橋が修理されず放置されてしまう。その土地が私有地化され、通るためにお金を払わなければならなくなってしまふ。さらに公的サービスが受けられなくなると、警察などの安全を守ってくれる人がいなくなったり、学校での教科書の無料配付がなくなったりと多くの面で苦しくなってしまうだろう。このように数多くの仕組みが税金というもので支えられていたのだ。「もし税が日本からなくなったら」と考えるだけでも、恐ろしい。

私は、簡単に税について調べたが、「こんなに難しく、大切なものだったのか」と思った。調べる前は、「値段が十%分上がってしまう、大変よくない制度」と思っていたのだが、調べてみると「税がないと、自分の生活が成り立たない」と感じた。何気なくある、税や税金といった仕組みだが、その一文字、二文字にとってもない内容が詰められていたのだった。私は税についてはまだ、ほんの一握りだけ知っただけだった。これからの生活にも関係する仕組みを、もっと知りたいと思った。またこの作文は、この知りたいという思いのきっかけにもなった。

## 「税制と未来への提言」

静岡市立安倍川中学校 1 年 倉持 涼太

税は、社会の基盤を支える重要な仕組みである。この文章内では、現在行われている税制の課題を分析し、未来に向けた提言を行う。

まず、税には、直接税と間接税に分けられる。では、それぞれどのようなものであるのか。

直接税とは、納税者の所得や資産に直接課される税金である。具体例として、所得税や法人税、相続税などがある。

間接税とは、商品やサービスの購入時に消費者が支払う税金のことであり、納税者が直接納めるわけではない。具体例として、消費税などである。

次に今の課題である。今の課題は「増税」と考えている。たしかに現在、円安や財政赤字、少子高齢化などが進行し、増税せざるをえない状況なのかもしれない。しかし、国は、負担を最小限に減らすこと、国民の意見を聞くパブリックコメントを行うことが重要であると僕は考えている。なぜなら、日本の政治に国民が参加し、意見を出し話し合うこと、これが民主主義国家であるからだ。そして、ムダの削減も重要である。政府は、支出がくを見直し、増税が必要なのかを再度見直し、必要性を減らしていくことができるかもしれないからだ。

最後に、かん境保護の強化をしていく必要がある。現在物価高が進んでいる。その背景には、地球温暖化がある。地球温暖化はかん境汚せん、二酸化炭素を多く排出していること、植物をばっさいしていることが主な原因である。かん境保護の強化の具体的な例としては、エスディージーズを日々意識することである。そうすることで、物価高や増税が収まるのではないかと考えている。

最後に未来に向けた提言だ。僕が未来の日本に伝えたいことは、「日々の努力、国政への参加で増税はおさえられる」ということだ。日々の努力というのは、かん境保護の強化に協力であり、国政への参加は、意見を出し、話し合っよりよい日本にしていくために、みなさんも税について考えることが必要である。

## 「税金の役割と私たちの未来」

静岡市立安倍川中学校 2年 良知 虎路

税金は、私たちの生活にとってとても大切なお金です。税金を集めることで、国や地方自治体がみんなのためにいろいろなサービスを提供しています。たとえば、学校で勉強ができることや、病気の治療を受けることができること、道路を安全に通ることができるのも、すべて税金があるからです。税金には、いくつかの種類があります。

まずは、「所得税」です。これは、働いてお金をもらうときに、その一部を税金として国に納めるというものです。お父さんやお母さんが仕事をして給料をもらうと、その給料の一部が所得税として引かれます。この時引かれたお金は、国が道路をつくったり、学校のために使われます。

次に、「消費税」です。これは、私たちが買い物をするときにかかる税金です。たとえば、文房具やお菓子などを買うと、その値段の中に消費税が含まれています。現在、日本の消費税は十パーセントです。つまり、百円のお菓子を買うときには、百十円をはらう必要があります。このうち、十円が消費税として国や地方自治体に納められるのです。

さらに、「住民税」という税金もあります。住民税は、私たちが住んでいる地域のためにはらう税金です。住民税は、私たちが住んでいる市や町が集めて、そのお金を使って地域をよりよくするための活動をします。たとえば、地域の学校の修理や、ゴミの回収、地域の公園の管理などに使われます。

税金をはらうことは、私たちが社会の一員として果たすべき責任です。みんなが税金を納めることで、国や地方自治体は私たちのために必要なサービスを提供することができます。もし税金をはらわない人が増えると、学校の設備がそろわなくなってしまうたり、道路が壊れたままになったりして、社会がうまく機能しなくなってしまいます。

税金をはらうことは、ただお金を取られるということではなく、みんなが安心して暮らせる社会をつくるために大切なことです。私たち一人ひとりが税金をしっかりと納めることで、よりよい社会がつくられます。そして、その社会で私たちは安全で豊かな生活を送ることができるのです。

税金は、みんなで支え合うためのお金です。これから大人になって働くようになったとき税金を納めることが求められます。そのときには、税金がどのように使われているかを考え、社会に貢献する大切さを理解してほしいと思います。税金を正しく納めることで、私たちの未来はもっと明るく、安心できるものになるでしょう。

## 「税について考えたこと」

静岡市立城山中学校 2年 松山 瑞希

僕は、コンビニやスーパーなどでおかしやジュースを買う時に毎回、「この商品の値段高いな」というものや、「この商品の値段高くなっているな」と思うことがたくさんあります。

では、なぜ税金が上がってしまうのかが気になっていろいろなことを調べてみました。

まず増税とは、国や自治体が社会保障や公的サービスを運営するための資金です。税金の課税対象や課税率は個別の法律で定められています。その金額や税率を上げることが増税といえます。

では、増税する理由や目的は为什么呢。

増税する目的は、国などが行う施策の財源確保です。例えば社会情勢の変化など、何らかの理由により新たな施策が必要になることがあります。施策の実現にはお金が必要になるため、税収を増やして財源を賄う仕組みです。税金は、使用目的が限定されているかどうかによって次のような種類があります。

1つ目は普通税というもので、使い道が決められていない税金で、所得税・法人税・相続税・たばこ税などが普通税です。

2つ目は目的税というもので、使い道が決められている税金で、復興税・都市計画税などが目的税です。

税金の種類は他にも、納付先による分類の国税・地方税や、納付方法による分類の直接税・間接税があります。

目的税を導入する場合はもちろん、普通税であっても増税は国民に負担を強いるものです。そのため、増税の実施には明確な理由が必要です。

増税によるメリットやデメリットは、どのようなものがあるのでしょうか。

まずは、増税のメリットです。増税のメリットは、国や自治体の収入が増えることです。これによって公共サービスなど新たに実施したり、より充実させたりすることが可能になります。また、消費増税前の「駆け込み需要」などのように一時的な経済効果を生むことも考えられます。

次は、増税のデメリットです。増税のデメリットは、国民や企業の負担を増加させ、景気の悪化を招きかねません。例えば、法人税を増税すると、企業は税金による支出が増えて経営に影響を及ぼすこともあります。自社の商品やサービスの価格を上げたり、投資を控えたりすることも考えられます。

また消費税のように、支払う人の収入に関わらず負担する税率が一定である場合、問題視されるのが「逆進性」です。所得の低い人にとっての税金の負担割合が、高い人に比べて多くなってしまいます。そのため、税率が一律であっても、実質的な負担が平等になりません。首相や与党議員などの政治家にとっては世論の反感を買うおそれもあります。

日本が安定して暮らせるように増税がなくなってほしいなと思いました。

## 「税金の使われ方」

静岡市立城山中学校 3年 山田 悠斗

ぼくは今まで税金というものはなぜあるのかと思っていました。

何か物を買うとそれと一緒に消費税を払わないといけないので、なぜこんなにお金を集めたいのか不思議に思っていました。しかし疑問に思い調べてみたら税金というのはぼくたちの生活にとって欠かせないものだと分かりました。

例えば、ぼくたち中学生が学校で使っているイスや机、図書室にある本、更には教科書や理科室にある道具などは全て税金でまかなわれているのです。また、学校で食べている給食の費用の一部も税金によって払われているのです。ぼくたちは教科書や授業で使う道具はあるのが当たり前かのように過ごしていますがこの裏には、たくさんの方がぼくたちのために税金を払っているという事実があって、ぼくたちはそのような人たちに感謝する気持ちを忘れずに生活しなければいけません。

しかし、日本には税金を払わない人や税金に反対する人も少なくはありません。けどもし、税金を払う人が多くなったり、誰もが税金を払わなくなってしまうと学生だけでなくたくさんの方の生活などが大きく変わってしまいます。

例をあげると道路や橋などは私たちの生活を便利にしてくれています。しかし税金が払われないと、道路や橋などが整備されずどんどん傷んでいきます。そのせいで車が使えなくなるかもしれません。

もう一つ例をあげます。税金の使い道の一部に警察が犯罪の防止や交通安全の確保ができるように使われています。税金がなかったらわたしたちがトラブルに巻きこまれた時に費用を気にせずに相談したり、捜査やたいほをしてもらうことができなくなるかもしれません。

このようなことからぼくは税金というものは必要じゃないと思っていたけど、今では税金の役割や重要性を理解することができました。だからぼくも大人になったら当然のように税金を払えるような人間になりたいです。